

登別市における「福祉のまちづくり推進」への 調査分析

伊藤 春樹
藤女子大学 人間生活学部 人間生活・学科
藤江 紀彦、坂本 大輔、伊藤 真吾
社会福祉法人 登別市社会福祉協議会
鳥居 一頼
登別福祉のまちづくり推進会委員長

1. はじめに

地方分権が叫ばれている中で、地域住民のための地域住民のニーズに基づいた地域住民の主体的な「まちづくり」は重要である。そこで、登別市を事例として、地域住民の主体的な「まちづくり」をどのように実現していくか、そこに潜む問題点などを明確に出来るように論じていきたい。

平成 17 年 2 月に出された登別市の市政執行方針では「第一、分権型社会を担う協働のまちづくり」、「第二、安定した財政運営と基礎自治体のあり方」、そして「第三、創造的行政運営システムの構築」について言及している。また、町の重点施策として「第一に、産業の振興と雇用の創出」、「第二に、健康で活力あるまちづくり」、「第三に、安全で住みよいまちづくり」を挙げている¹。

このように、市制方針を実現するためには、住民と共に「まちづくり」を行っていくことになる。この第一歩が、地域住民の必要とするニーズが何なのかを明確にすることであるが、この地域のニーズにどのように対応出来るのかということも、次の重要な課題となる。今回の調査では、住民のニーズがどのようなどころにあるのかを明確にするために、出来るだけ多くの人々の関心や考え方を把握するべく、多くの住民を巻き込むことを一つの目標にしてアンケート調査を行った。

「まちづくり」と並行して、登別市は、平成 18 年度からスタートする「高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画」と「障害者福祉計画」を策定することになっていて、「安心して子どもを生み、健やかに育てる環境づくり」により少子化の流れを変えることを目指して、本年 4 月に「次世代育成支援行動計画」をスタートし、その実効を上げるよう取り組んでいる。

更に、第 2 期基本計画の施策策定の基礎資料とするために、昨年 11 月に 2,000 人の市民を対象にニーズ調査を実施し、681 人の回答 (34.05%) を得て、本年 2 月、その調査結果について報告している²。このような調査でも、統計学的に正しい結果を得られるのかもしれないが、「住民とともに創る」という意味では疑問がある。なぜなら、市役所が独自にニーズを調査して、そのニーズに応じたサービスを施策として計画立案するというのであれば、この方法は正しいかもしれないが、「住民とともに創る」のであれば、ニーズを調べる段階から住民の自主参加を引き出すような活動であることがもっと重要である。統計学的に的確で正しいニーズを追求できたとしても、住民の参加が求められないようでは、市役所が計画立案したものは、その有効性や効果という本来の意味では半減してしまう。

「まちづくり」とは、そもそもサービスを提供する人とサービスを受ける人とを分離することではなく、サービスを提供する人がサービスを受ける人を伴っている状況を創り出すことである（資料1の呼びかけを参照）。

このような考え方の下に、登別市社会福祉協議会「福祉のまちづくり推進会」が中心となって、全ての住民を対象に、連合町内会理事会承認を得て、各町内会の協力の下に調査をしたアンケート調査を紹介したい。今一度確認しておきたいのは、この小論はアンケート調査の分析であるが、「福祉のまちづくり推進会」の目的という観点からは、分析は目的への第一歩でもない、ただの出発点でしかない。

2、調査方法

今回の調査は「福祉のまちづくり推進会」（委員長：鳥居一頼氏）が中心になって5回に亘る議論を経て、下記に示したような項目に従って、アンケート調査を行うことに決定した。

○登別の住みやすさの要因○福祉～子育て支援、障がい者への支援策、老後の不安意識度、高齢者の支援策○健康～健康の認識度、健康作り、健康管理○男女共同参画～女性に関する用語の認知度、職業意識度、役割分担の障害要因○環境への配慮～不快要因、まちづくりへの配慮○消費生活～トラブル度と相談窓口○防災～災害時の避難場所の認識度と不安要因、防災に対する準備○産業～地域産業の振興施策の方向性○交通～交通手段と路線バス、道路整備○公園～利用度、公園整備○景観～街並みの満足度○生涯学習～求められる施策、図書館の利用度○文化～芸術○文化鑑賞で求められるジャンル○生き甲斐～生き甲斐のあるライフスタイル○市からの情報提供～事業や施策の重要度、インターネットの利用度、ホームページ○協働～まちづくりへの関心度○コミュニティ活動～関心度○市町村合併～方向性○まちづくりへの意見～ニーズの把握（自由記載）。

この項目に従って「資料1」として添付したようなアンケート用紙を作成し、登別市の各町内会の協力を得て、本年7月から8月にかけて実施した。このアンケートは全住民を対象にしているが、町内会の協力の下に行われたために、町内会から全戸に配布して記入を依頼するという方法をとった。

結果として、11,138通の回答を得たので、その分析を行った。登別市の全人口が54,176人（15歳以上人口は47,558人、平成15年で世帯数は23,883世帯、一世帯あたりの構成人数は2.24人）であることを考えれば、住民の約25%、世帯数で考えると約半数が答えたことになり、それなりの民意を表していると考えられるが、統計学的には問題がない訳ではない。その問題等を明確にしなが、分析を進めていく。

3、登別市の人口と回答者の特徴

登別市の人口は約5.4万であるが、他の市町村と同じように少子高齢化が進んでいる市である（表1）。この登別市において、地区別の人口などを調べるとともに、今回の回答者がどの地区の、どのような年齢層、職業であるかを調べてみた。

登別市は、温泉街を抱える市で地区別の特色があると考えられているので、市の全人口とともに地区別人口などを表2にまとめた。地区別人口を見ると、鷺別地区の人口が最も多く、西陵地区と緑陽地区がほぼ同じ人口を占め、登別地区と幌別地区が市の中では最も人口が少ない。しかし、高齢化率を見ると、市全体では23.6%であるのに、登別地区では約29.5%であり、西陵地区と幌別地区が26.5%となっているが緑陽地区が17%ともっとも低い。0-5歳の割合が最も高いのは緑陽地区であり、緑陽地

区と幌別地区が子供の多い地区である。18-64歳の割合は緑陽地区が65%と高く、幌別地区が61%、幌別地区が60%、登別地区が58.5%となっている。このように、温泉地区である登別地区は、急速な高齢化が進みつつあるが、幌別・緑陽地区は若い年齢層が多い地区と言える。

表 1、登別市の高齢化率の推移 (%)

	S50年	S55年	S60年	H2年	H7年	H12年	H13年	H14年	H15年	H17年
高齢化率	5.4	7.1	9.8	13.1	16.1	19.7	20.6	21.4	22.2	24.1

注) <http://www.city.noboribetsu.hokkaido.jp/>から引用。平成14年までは実計値であるが、それ以降は推計値である。

表 2、登別市の人口、地区別人口、年齢階級別人口とそれぞれの割合 (平成17年5月)

地 区		全市	登別地区	幌別地区	西陵地区	緑陽地区	鶯別地区	
人 口		54,176 100.0%	6,514 100.0%	9,455 100.0%	9,582 100.0%	14,482 100.0%	14,143 100.0%	
年 齢 階 級 別 人 口	0~5歳	未就学児	2,497 4.6%	230 3.5%	453 4.8%	431 4.5%	798 5.5%	585 4.1%
	6~17歳	就学児	5,698 10.5%	550 1.0%	1,127 17.3%	949 10.0%	1,780 18.6%	1,292 8.9%
	小 計		8,195 15.1%	780 12.0%	1,580 16.7%	1,380 14.4%	2,578 17.8%	1,877 13.3%
	18~39歳	青 年	13,461 24.8%	1,493 22.9%	2,470 26.1%	2,253 23.5%	4,007 27.7%	3,238 22.9%
	40~64歳	中 年	19,757 36.5%	2,318 35.6%	3,343 35.4%	3,407 35.6%	5,410 37.4%	5,279 37.3%
	小 計		33,218 61.3%	3,811 58.5%	5,813 61.5%	5,660 59.1%	9,417 65.0%	8,517 60.2%
	65~74歳	前期高齢者	7,211 13.3%	1,033 15.9%	1,186 12.5%	1,360 14.2%	1,517 10.5%	2,115 15.0%
	75歳以上	後期高齢者	5,552 10.2%	890 13.7%	876 9.3%	1,182 12.3%	970 6.7%	1,634 11.6%
	小 計(高齢化率)		12,763 23.6%	1,923 29.5%	2,062 21.8%	2,542 26.5%	2,487 17.2%	3,749 26.5%
	地区別人口割合		100.0%	15.1%	16.1%	19.9%	19.5%	29.4%

注) 表1の平成17年の高齢化率は推計値であるが、この表の数値は実計値である。18-64歳の割合は61.3%である。従って、3名の18-64歳の人が高齢者と18歳未満の子供から合わせて2名を支えることになる。

アンケート回答者の男女割合は、男性が35.6%、女性が54.7%、約10%が記入漏れである。また、男性の回答者数は女性の約65%であるので、少し女性の比重が高い回答者割合である。市の全人口に占める男性の割合が47.8%であることと比べれば、回答者では、女性の割合が非常に高いことを示している。

回答者の年齢別割合では、50歳以上が全体の70%を超えているが、50歳以上の10歳区分で見ると、ほぼ同じ割合で回答者(各年齢区分とも約25%である)を得ている(表3)。市全体の人口に占める50歳以上人口の割合は48.9%なので、人口に占めるこの年齢区分別割合から見ても、回答者において、50歳以上の高齢者の回答者の割合が非常に高いということが出来る。また、表3には、この回答者の年齢区分別男女別割合を示した。市の人口に占める年齢区分別男女割合は、70歳以上を除けば、約半数を男性が占めている。特に、年齢が低いほど男性の割合が女性よりも少し高く、高齢化するほど女性の割合が極端に高くなる。しかし、回答者においては、年齢が若いほど女性の占める割合が圧倒的に高く、高齢化するにつれて男性の割合が増加する。50歳代までは30%未満であるが、50歳代で初めて30%台、60歳代以上から40%を超えるようになり、70歳以上になって女性の割合を上回る。この意味では、今回のアンケート調査には若い年代層の女性が多く参加しているとも解釈出来るが、

若い世代の回答者は少ないことと、この少ない回答者の多くは女性であるので、公正さを欠く。また、人口において女性の割合が増加する70歳以上の回答者において、男性の割合が高いことは興味深い。

人口においては、70歳までの年齢層では女性が圧倒的に多いことから、今回の調査に主体的に参加したのは主に女性と高齢者の男性であったと言える。特に、今回のようなアンケート調査に関しては、地域での参加者は女性と高齢者であり、生産活動を中心に行っている若い男性に参加を期待することはなかなか難しいという図式がここでも成立している。登別市では、生産活動が地域から乖離している状況があるのかもしれない。もし、生産活動が地域に、その地区に根強い関係を持っていれば、住民のニーズ調査へ、それなりの関心を持ってもらいたいのではないかと私たちの思い込みがあることは否めない。

表 3、市全体の年齢区分別男女割合、年齢区分別割合と回答者の年齢別男女割合、年齢別割合

	総人口に占める	回答者に占める		回答者に占める	人口の年齢別構成(%)	回答者の年齢別構成(%)
	男性割合	男性割合	女性割合	性別不明の割合		
18歳未満	50.9	13.3	86.7	0.0	15.1	0.3
18～29歳	51.1	25.7	72.7	1.6	12.7	2.2
30～39歳	49.7	20.2	78.1	1.7	12.1	8.2
40～49歳	48.2	22.0	75.7	2.3	11.1	11.5
50～59歳	47.3	31.0	66.0	3.0	17.2	23.6
60～69歳	47.2	45.1	46.3	8.6	15.3	24.9
70歳以上	41.8	46.3	39.0	14.8	16.4	25.9
年齢不明	—	8.3	15.7	76.0	—	3.4
合計	47.8	35.6	54.7	9.7	100.0	100.0

注) 市の年齢区分別男性の割合は70歳以上の年齢区分を除いて、男性の割合は50%近くであるが、回答者の年齢別男女割合においては、60～69歳の年齢区分は市の人口における男女割合に近いが、それ以外の年齢区分毎の男女割合は明らかに異なる。しかも、市の人口に占める年齢区分毎の割合では、この表にあげた年齢区分別構成割合では、それほど大きな差がない。回答者の年齢区分別で明らかになったのは、40歳未満の回答者は約10%であるが、60歳以上が半数を占めている。50歳以上の回答者は75%を占め、回答者のほとんどが50歳以上の高齢者である。また、年齢区分別男女割合は高齢になればなるほど男性の割合が増している。

職業別に見てみると、無職が最も多く(31.5%)、次に専業主婦(24.7%)で、会社員、パート・アルバイトがともに10%を超える割合を占めている。(表4)。これは、50歳以上の回答者が70%以上、60歳以上が50%以上を占めていることから、当然の結果であると推論できる。これを男女別に調べてみると、表4のようになる。パート・アルバイトと専業主婦は女性が圧倒的に多い。また、学生も女性が多い。回答者は圧倒的に女性が多かったため、学生、パート・アルバイト、専業主婦の記入者が多いことは、表裏一体の結果と言えよう。回答者で専属の職業に就業している人の場合は男性が多く、学生、パート・アルバイト、専業主婦(これは女性のみであるのは当然)は圧倒的に女性が多い。ただ、無職という回答者は男性では60%に近い。これは大変興味深いことが含まれているように思うが、無職の大多数が60歳以上であるため、退職者と考えの方が妥当である。高齢者の回答者(回答者の50%以上を占めている)においては、女性は専業主婦と回答する選択肢を持つが、男性は無職と回答する他ない現実も存在する(表5)。女性は一生現役であるが、男性は定年後働き続けることは難しく無職という存在になってしまう。この分析では、専業主婦や無職を専業と考えれば別であるが、専業の職業を持って働いている人の回答者が少ないことが特徴でもある。

表 4、回答者の職業別割合、職業別男女別割合

	職業別割合	男性	女性	不明
	学生	0.5	28.8	71.2
農業	0.2	42.9	28.6	28.6
漁業	0.3	61.8	32.4	5.9
会社員・団体職員	12.8	66.7	29.5	3.9

公務員	2.8	68.6	28.9	2.5
自営業	5.7	50.4	44.1	5.5
パート・アルバイト	14.0	12.3	83.7	4.0
専業主婦	24.7	0.6	95.1	4.3
無職	31.5	57.2	29.7	13.1
その他	2.7	26.0	34.2	39.9
合計	100.0	35.6	54.7	9.7

注) 学生、パート・アルバイトや専業主婦は女性が圧倒的に多いが、他の職業では男性が多い。また農業、無職、その他の職業で性別を記入しなかった人が多い。無職と専業主婦で回答者の56%を占める。これに次いで多いのがパート・アルバイトであり、会社員・団体職員である

表 5、回答者の職業別、年齢区分別割合

	18歳未満	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	不明	合計
学生	55.8	21.2	3.8	5.8	0.0	1.9	3.8	7.7	100.0
農業	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	23.8	33.3	14.3	100.0
漁業	0.0	0.0	14.7	17.6	20.6	17.6	20.6	8.8	100.0
会社員・団体職員	0.0	4.8	13.3	21.3	44.5	14.0	1.7	0.4	100.0
公務員	0.3	6.3	21.3	27.0	39.7	4.1	1.0	0.3	100.0
自営業	0.0	0.8	7.0	11.6	39.1	29.3	11.3	0.9	100.0
パート・アルバイト	0.0	2.2	12.2	25.4	37.3	20.1	2.1	0.6	100.0
専業主婦	0.0	3.3	13.7	12.4	27.8	27.2	14.6	0.9	100.0
無職	0.0	0.1	0.7	0.9	4.6	33.2	59.3	1.2	100.0
その他	0.0	1.2	2.3	4.7	11.7	16.5	30.4	33.1	100.0
合計	0.3	2.2	8.2	11.5	23.6	24.9	25.9	3.4	100.0

注) 学生の回答者は18歳未満が最も多いのは当然であるが、高齢者でも学生と記入している人がいることは少し疑問が残る。50-59歳は多くの職種に分散しているが60歳以上では農業、漁業や無職に多くの人が集中している。

世帯構成別では、夫婦のみの世帯が圧倒的に多く、次いで親子の二世帯世帯であり、両者で約75%を占めている。三世帯は5%にも満たないが、高齢者家族と若者の家族がどのように関係を持っているか調べることは重要である。今回の調査から直接的に断定することは困難であるが、三世帯家族が少ないことから考えると、高齢者と若者との関連が非常に薄いことが読み取れる。また、回答者の世帯構成は夫婦のみの回答者を除いて、全ての世帯構成において女性の回答者が圧倒的に多い(表6)。これを年齢別に調べてみると、夫婦のみの世帯ではほとんどの回答者が50歳以上の高齢者であり、親子二世帯の世帯構成では、50歳未満の回答者が多いという結果になっている(表7)。18-29歳の年齢区分で単身世帯が多いことは当然のことであるが、高齢者は単身世帯か夫婦のみ世帯となっている。世代間交流を活発にするコミュニティを作るためには、この高齢者の単身世帯や夫婦のみ世帯をどのように支えるかだけでなく、どのように新しいコミュニティ形成に参加してもらうかを、市の施策に反映させなければならない。

表 6、世帯構成別、回答者の男女別割合(%)

	男性	女性	不明	合計
単身世帯	24.8	64.6	10.7	12.8
夫婦のみ	49.1	42.2	8.7	40.0
親と子(二世帯)	29.6	65.7	4.7	34.5
祖父母と親と子(三世帯)	26.5	68.7	4.8	4.7
記入なし	17.1	45.8	37.1	3.8
合計	35.6	54.7	9.7	100.0

注) 夫婦のみ世帯では回答者が男性と女性の割合が類似しているが、他の世帯構成では女性が圧倒的に多い。

表 7、世帯構成別、回答者の年齢別割合(%)

	単身世帯	夫婦のみ	親と子	祖父母と親と	その他	合計
--	------	------	-----	--------	-----	----

			(二世帯)	子(三世帯)		
18歳未満	0.0	10.0	63.3	26.7	0.0	100.0
18～29歳	9.0	18.8	57.6	6.9	7.8	100.0
30～39歳	4.3	18.1	67.9	5.5	4.3	100.0
40～49歳	6.1	15.4	63.4	11.3	3.8	100.0
50～59歳	8.7	38.7	41.9	5.9	4.8	100.0
60～69歳	12.0	55.9	22.5	2.9	6.8	100.0
70歳以上	24.2	49.4	16.9	2.2	7.3	100.0
不明	6.7	12.5	10.1	0.3	70.4	100.0
合計	12.8	40.0	34.5	4.7	8.1	100.0

注) 70歳以上では単身世帯と夫婦のみ世帯が75%近くを占めるが、60-69歳では単身世帯と夫婦のみ世帯が68%を占め、夫婦のみ世帯と親と子(二世帯)では78%を占めている。また、年齢が若くなればなるほど親と子(二世帯)の割合が増加する。この傾向は、祖父母と親と子(三世帯)にも見られる。

ここまでは、回答者の性別、年齢別、職業別や世帯構成などに基づいてクロス集計を行ってきたが、それぞれに関して地区という概念を入れて考えてみる。地区別回答者の割合から、登別地区が最も回答者の割合が少ない。これは人口において、登別地区の人口が市の全人口に占める割合が最も低いことを考えると当然ではあるが、人口に占める割合よりも少し低い(表2、表8)。地区別の回答者の割合からは、ほぼ人口と同じような割合で回答者を獲得していると考えても良い。地区別男女割合では、登別地区で男性の割合が高いが、これは登別地区が高齢者の割合が高いことが起因していると考えられる。

表 8、五地域別、回答者の男女別人数と割合

	男性	女性	不明	合計	男性(%)	女性(%)	不明(%)	合計(%)
登別地区	495	616	103	1,214	40.8	50.7	8.5	10.9
幌別地区	622	1,081	148	1,851	33.6	58.4	8.0	16.6
西稜地区	757	1,220	180	2,157	35.1	56.6	8.3	19.4
緑陽地区	810	1,304	152	2,266	35.7	57.5	6.7	20.3
鷺別地区	1,260	1,828	248	3,336	37.8	54.8	7.4	30.0
不明	24	43	247	314	7.6	13.7	78.7	2.8
合計	3,968	6,092	1,078	11,138	35.6	54.7	9.7	100.0

注) 全ての地区で10%を超えているが、緑陽地区と鷺別地区との合計で50%を超えている。この二地区の回答者の割合が人口に占める地区人口の割合に対してよりも僅かに高いが、大きな差があるわけではない。

表 9、地域別、回答者の年齢階級別割合(%)

	18歳未満	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	不明	合計
登別地区	0.2	2.5	6.6	11.6	21.3	24.5	31.7	1.6	100.0
幌別地区	0.5	1.9	10.2	13.0	24.9	24.0	24.3	1.1	100.0
西稜地区	0.2	2.9	9.0	11.0	22.5	25.5	27.6	1.2	100.0
緑陽地区	0.3	2.2	9.1	13.3	26.3	27.0	20.7	1.1	100.0
鷺別地区	0.1	1.9	7.3	10.6	24.3	25.7	28.6	1.4	100.0
不明	0.3	0.3	1.6	2.2	4.8	4.5	10.5	75.8	100.0
合計	0.3	2.2	8.2	11.5	23.6	24.9	25.9	3.4	100.0

注) 年齢階級別の回答者の割合は地区間での差はあまりない。最も差があるのが70歳以上の回答者で最高と最低の差が10%である。

地区別の年齢別割合(表9)では、30-39歳の年齢階級においては、幌別地区の回答者が最も高く鷺別地区で最低、70歳以上の回答者では登別地区の回答者が多いことが目につくが、その他の年齢階級ではほとんど差がないということが出来る。世帯別割合(表10)は、単身世帯では緑陽地区が少なく登別市が多いことが特徴であるが、親と子(二世帯)では全く逆になっている。夫婦のみ世帯ではどの地区でも大きな差がない。親子二世帯、三世帯世帯ではどの地区とも大きな差がない。

表 10、地域別、回答者の世帯別割合

	単身世帯	夫婦のみ	親と子 (二世帯)	祖父母と親と子 (三世帯)	その他	合計
登別地区	18.1	38.9	30.9	5.4	6.8	100.0
幌別地区	14.3	38.2	36.6	4.5	6.3	100.0
西稜地区	12.4	42.7	35.6	3.6	5.6	100.0
緑陽地区	9.8	41.0	37.5	5.5	6.2	100.0
鷺別地区	13.2	42.1	34.4	5.0	5.3	100.0
不明	2.9	5.4	8.0	0.6	83.1	100.0
合計	12.8	40.0	34.5	4.7	8.1	100.0

注) 世帯別の回答者の割合は地区別の差は単身世帯 (8.3%) と親と子 (二世帯) (6.6%) で大きい。この差は登別地区と緑陽地区との間で見られる。

職業別割合(表 11)を示したが、学生、農業、漁業、公務員の回答者は少ないので比較してもあまり意味がないと思うが、他の職業でも大きな差がない。敢えて差を見出すならば、専業主婦と答えた人が登別地区では非常に少ないという程度である。

表 11、地域別、回答者の職業別割合

	学生	農業	漁業	職員 会社員・ 団体	公務員	自営業	パート ・ アルバイト	専業主婦	無職	その他	合計
登別地区	0.5	0.2	1.7	14.3	1.5	7.7	14.8	17.5	35.7	6.1	100.0
幌別地区	0.7	0.6	0.1	13.9	3.1	8.1	15.1	24.4	28.7	5.3	100.0
西稜地区	0.3	0.0	0.0	10.9	4.0	4.4	14.0	28.1	33.2	5.1	100.0
緑陽地区	0.5	0.1	0.1	13.7	2.8	5.5	17.0	26.6	29.4	4.1	100.0
鷺別地区	0.4	0.1	0.2	13.4	2.6	5.2	12.2	25.9	34.2	5.7	100.0
不明	1.0	0.6	0.0	1.9	0.6	0.6	1.6	2.5	7.6	83.4	100.0
合計	0.5	0.2	0.3	12.8	2.8	5.7	14.0	24.7	31.5	7.4	100.0

このように見ると、人口における地区別の特徴が回答者の地区別分布にも影響を与えているので、このアンケート調査の分析をすれば、凡その地区毎の特色が出る可能性はある。しかし、若い年齢層の回答者が少ないのが問題であり、これらの人々が地域の問題に対して興味が薄いのかかもしれないが、彼らが参加できる「まちづくり」を確立することも必要である。高齢者も若い世代も関与している地域の「まちづくり」が最終目標である。

4、「福祉のまちづくり推進会」と社会福祉協議会

「福祉のまちづくり推進会」の運営母体である社会福祉協議会の住民への周知度を、今回の調査でも同時に調査しているので、ここで簡単に触れておく。社会福祉協議会を「よく知っている」人は回答者の 11.8%であるが、「よく知っている」「少しは知っている」と「名前程度は知っている」の回答者を合計した人の割合は約 80%である。「名前程度は知っている」が約 40%であるので、多くの人の地域福祉活動の拠点となるべき社会福祉協議会は、登別市では、ある程度、周知されていると言える(表 12)。社会福祉協議会を「よく知っている」と答えた人のうち約 50%が男性であり、社会福祉協議会を男性のほうが女性よりも良く知っているようである。

地区別に社会福祉協議会の周知度を分析すると、登別地区で最も良く知られており、緑陽地区で最も知られていない(表 13)。ここでも、回答者の特徴の項で議論した、登別地区と緑陽地区の差が現われているとすると、周知度の差は回答者の年齢差に起因するのかもしれない。若い世代への社会

福祉協議会の周知も今後の課題である。

表 12、社会福祉協議会の男女別周知度と周知度別男女割合(%)

	男性	女性	不明	合計	男性	女性	不明	合計
よく知っている	16.5	9.3	8.4	11.8	49.9	43.1	6.9	100.0
少し知っている	31.9	29.0	23.9	29.6	38.5	53.7	7.8	100.0
名前程度は知っている	37.2	42.1	30.1	39.2	33.9	58.7	7.4	100.0
全く知らない	13.0	18.3	13.7	16.0	29.0	62.7	8.3	100.0
不明	1.4	1.4	23.8	3.5	13.9	21.0	65.1	100.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	35.6	54.7	9.7	100.0

表 13、社会福祉協議会の地区別周知度別割合

	よく知っている	少し知っている	名前程度は知っている	全く知らない	不明	合計
登別地区	16.1	29.1	38.2	14.0	2.6	100.0
幌別地区	14.6	30.1	38.5	16.1	0.7	100.0
西稜地区	13.1	31.2	41.4	13.3	1.2	100.0
緑陽地区	9.8	31.2	39.5	17.7	1.8	100.0
鷺別地区	10.1	29.1	40.9	18.1	1.9	100.0
不明	1.6	10.2	11.1	6.1	71.0	100.0
合計	11.8	29.6	39.2	16.0	3.5	100.0

5、回答者自身と地域との関係

回答者自身が近所付き合いをどのようにしているか、質問した結果を表 14 に示した。「日ごろから助け合っている」とした回答者は 14.3%であるが、男性が 17%、女性が 12.1%と男性の方が助け合っていると答えた人が多い。「気のあった人とは親しくしている」「たまに会えば立ち話をするくらい」と「挨拶を交わす程度」と答えた人の全体に占める割合は 20%台であるが、「気のあった人とは親しくしている」と答えた人の割合は男女とも差がないが、「たまに会えば立ち話をするくらい」と答えた人は女性に多く、「挨拶を交わす程度」と答えた人は男性に多い。しかし、「煩わしいので付き合いわない」と答えた人は合計でも 17名しか居らず、本当に僅かである。

「日ごろ助け合っている」と答えた人と「困り事などを相談できる」と答えた人の差が大きい、助け合いと相談事とはかなり意識の中で差がある。一般的に、相談事に対しては本人自身の問題を意識することが多いが、助け合いに対しては共通の課題に対する問題と捉えることが多いようである。恐らく「共通の問題を相談するか」という質問にすると、回答は違ったものになるかもしれない。この論点は、助け合いに関しても同じであると考えられるので、次回の調査では共通の問題と個人的な問題に分けて質問する方が良いかもしれない。

表 14、男女別、近所との付き合いの程度別人数とその割合

	男性	女性	不明	合計	男性(%)	女性(%)	不明(%)	合計(%)
日ごろから助け合っている	676	737	180	1,593	17.0	12.1	16.7	14.3
気のあった人とは親しくしている	1,051	1,635	266	2,952	26.5	26.8	24.7	26.5
困り事など相談できる	57	130	20	207	1.4	2.1	1.9	1.9
たまに会えば立ち話をするくらい	722	1,670	157	2,549	18.2	27.4	14.6	22.9
挨拶を交わす程度	1,323	1,694	244	3,261	33.3	27.8	22.6	29.3
ほとんど付き合いわない	51	49	10	110	1.3	0.8	0.9	1.0
煩わしいので付き合いわない	6	7	4	17	0.2	0.1	0.4	0.2
不明	82	170	197	449	2.1	2.8	18.3	4.0
合計	3,968	6,092	1,078	11,138	100.0	100.0	100.0	100.0

この助け合いの程度を地区別に分析してみると、登別地区がもっとも強く、他の地区とは異なった割合を示している。また、「たまに会えば立ち話をするくらい」と「挨拶を交わす程度」の合計を見ても登別地区は最も少ない。これは登別地区が温泉街を抱えるという特殊性があると考えられる。「困り事など相談できる」と「煩わしいのでほとんど付き合わない」と答えた人は非常に少ないが、地区別の特性は見られない。

表 15、地区別近所付き合いの程度別割合 (%)

	日ごろから助け合っている	気のある人と親しくしている	談話できる	困り事など相談できる	立ち話をするくらい	たまに会えば挨拶を交わす程度	挨拶を交わす合わない	ほとんど付き合わない	煩わしいので付き合わない	不明	合計
登別地区	19.2	29.5	2.1	20.6	24.8	0.7	0.2	2.9	100.0		
幌別地区	15.7	27.0	1.6	22.5	29.1	1.3	0.2	2.6	100.0		
西稜地区	14.7	23.5	2.6	24.0	31.5	1.2	0.1	2.3	100.0		
緑陽地区	13.2	26.3	1.5	24.9	30.0	1.0	0.1	3.0	100.0		
鷺別地区	12.6	28.4	1.7	23.0	30.4	0.8	0.1	3.1	100.0		
不明	10.5	14.3	1.3	10.8	15.0	1.0	0.6	46.5	100.0		
合計	14.3	26.5	1.9	22.9	29.3	1.0	0.2	4.0	100.0		

表 16、地区別、町内会とのかかわりの程度別人数と割合

	行事や祭りなどには、手伝いをしたり参加している	頼まれれば手伝いなど引き受ける	役員を引き受けたり、積極的に参加している	特に参加していない	できるだけかわりたくない	不明	合計
登別地区	14.7	27.0	9.3	36.2	2.2	10.5	100.0
幌別地区	15.1	24.7	11.6	38.6	2.3	7.7	100.0
西稜地区	10.4	31.0	8.8	40.1	2.7	7.0	100.0
緑陽地区	18.9	33.1	9.4	30.6	2.0	6.0	100.0
鷺別地区	11.4	27.6	8.6	40.5	2.7	9.1	100.0
不明	7.6	12.7	2.5	22.0	2.9	52.2	100.0
合計	13.6	28.4	9.2	37.1	2.5	9.2	100.0

地域の代表的な組織として存在する町内会との関わり方を調べると、表 16 のようになるが、どの地区の回答者も、半数近くが町内会には参加していない。西稜地区と鷺別地区で「行事や祭りなどには、手伝いしたり参加している」と「役員を引き受けたり、積極的に参加している」と答えた人の割合の合計が少なく、緑陽地区が最も高い。新興住宅街である緑陽地区で町内会に参加する人が多い。このように町内会に参加する人が多い地区の考察から、若い人が地域の活動に参加したくない訳ではないことが分かる。町内会が高齢者の活躍の場となっている場合が多いようだが、若い人にも活躍の場を与えることによって、世代間の交流が生まれることになる可能性はある。若い人は、社会福祉協議会をあまり知らないし、今回の調査にも参加していない。しかし、回答者の諸割合の分析から言えることは、若い世代が町内会に参加している地区もあるという事実である。従って、若い世代を巻き込んだ活動が出来ないのでなく、若い世代が興味を抱く活動を積極的に進めていないだけなのである。

6 住民が気にしている問題

住民がどのようなことに問題意識を持っているか、①高齢者に関して、②家族に関して、③健康医療に関して、④障がい児・者に関して、⑤子育てに関して、⑥防犯・防災に関して、⑦町内会に関して、⑧暮らしのことに、⑨市民活動に関しての九項目について、どの細項目に関心があるか複数回答で答えてもらった。それぞれの項目に関する地区別の関心を持った人数と回答者に占める割合を示したものが表 17 である。全ての地区において①高齢者のこと、③健康・医療のこと、⑧暮らしのことの順で関心が高い。地区別の違いはあまりない。しかし、①高齢者のことに関して、緑陽地区が 73.7% の関心を示しているのに、幌別地区では 63.0% の関心しかなく、結果として、この二地区では 10% の差があることになる。この次に差が大きいのは⑧の暮らしのことに、その差は 6.6% であるが、最も差が小さいのは防犯・防災の 2.1% である。この高齢者のことにもっとも関心がある地区、緑陽地区は高齢化率が最も低い地区でもある。推測でしかないが、緑陽地区では、年老いた両親と別居した若者の家族が多く住んでいることもあり得る。しかし、高齢者のことに関して、最も関心が低い地区は高齢化率がその次に低いことを考えると、他の多くの要因を検討すべきである。

表 17、項目ごとの地区別人数とその割合

	登別地区		幌別地区		西陵地区		緑陽地区		鷺別地区		不明	
高齢者こと	854人	70.3%	1,167	63.0	1,536	71.2	1,670	73.7	2,408	72.2	108	34.4
家族のこと	273	22.5	404	21.8	475	22.0	536	23.7	711	21.3	29	9.2
健康・医療のこと	786	64.7	1,168	63.1	1,437	66.6	1,536	67.8	2,228	66.8	99	31.5
障がい児・者のこと	134	11.0	271	14.6	311	14.4	357	15.8	451	13.5	16	5.1
子育てのこと	181	14.9	342	18.5	400	18.5	401	17.7	572	17.1	16	5.1
防犯・防災のこと	432	35.6	621	33.5	765	35.5	783	34.6	1,170	35.1	60	19.1
町内会のこと	167	13.8	233	12.6	228	10.6	266	11.7	397	11.9	17	5.4
暮らしのこと	584	48.1	793	42.8	1,034	47.9	1,061	46.8	1,649	49.4	66	21.0
市民活動のこと	98	8.1	205	11.1	217	10.1	210	9.3	312	9.4	19	6.1

高齢者に関して気になることとして、下記の二つの表に示すような細項目で示したことに関心があるものに、複数回答で記入したものを男女別に集計し、その割合を求めたものを表 18 にした。表 19 では、同じものを地区別に集計し直した。男女別の関心を見てみると、高齢化、年金や病気については男性の方が高く、在宅介護や福祉施設については女性の方が高い。これは、男性が介護の現場にあまり関わっていないことを表しているような感がある。女性は介護の担い手であるから、その最終の方法である在宅介護と福祉施設に関心が行くのかもしれない。

表 18、高齢者に関して気になる細項目として回答した男女別人数と男女別回答者数に占める割合

	男性	女性	不明	合計	男性(%)	女性(%)	不明(%)	合計(%)
高齢化	1,603	2,253	392	4,248	40.4	37.0	36.4	38.1
介護保険	1,327	2,048	273	3,648	33.4	33.6	25.3	32.8
在宅介護	782	1,416	162	2,360	19.7	23.2	15.0	21.2
年金	1,963	2,777	370	5,110	49.5	45.6	34.3	45.9
病気	1,950	2,627	457	5,034	49.1	43.1	42.4	45.2
福祉施設	729	1,355	148	2,232	18.4	22.2	13.7	20.0
住宅のつくり	255	476	50	781	6.4	7.8	4.6	7.0
悪徳商法	592	918	136	1,646	14.9	15.1	12.6	14.8

注) 男女別にしても表 29 の傾向は変わらないが、男性は高齢化、病気に関心が強いが、女性は在宅介護、福祉施設に男性よりはより関心がある。

高齢者に関することに対して、緑陽地区の関心が最も高かったが(表 17)、細項目ごとの関心を調べてみると年金、福祉施設と住宅のつくりが他の地区に比べて緑陽地区で高いが、際立っている訳ではなく、どこの地区もほとんど差がない。高齢化に関しては緑陽地区が最も関心が低い。

表 19、高齢者に関して気になる細項目として回答した地区別割合

	登別地区	幌別地区	西陵地区	緑陽地区	鷺別地区	不明
高齢化	40.6	39.7	40.3	36.7	37.7	19.7
介護保険	31.5	33.0	33.7	32.9	33.7	18.5
在宅介護	21.2	21.8	22.3	21.5	20.9	10.8
年金	47.4	47.2	44.3	49.4	45.4	23.9
病気	46.9	43.8	46.7	44.7	46.7	24.2
福祉施設	19.8	19.1	20.6	21.1	20.5	10.2
住宅のつくり	7.4	6.8	7.4	7.5	6.7	4.1
悪徳商法	15.4	14.9	16.0	14.3	14.5	8.9

どの地区も、20%を少し超える程度の興味を示している家族についての細項目を見てみると(表 17)、男性が老世帯や病気、老化に関心が高いが、女性は進学や就職に男性よりも関心を寄せている(表 20)。しかし、それほど大きな差がある訳ではない。これを地区毎に比較すると、どの細項目についても僅かな関心の差しか認められない(表 21)。この分析から、男性は家を守るという概念を強く持っていて、その矛先が自分の両親に向かい、女性では自分の子供や孫に向かっていると考えることが出来る。

表 20、家族に関して気になる細項目として回答した男女別人数と男女別回答者数に占める割合

	男性	女性	不明	合計	男性(%)	女性(%)	不明(%)	合計(%)
老世帯	1,083	889	218	2,190	27.3	14.6	20.2	19.7
独居	398	702	121	1,221	10.0	11.5	11.2	11.0
核家族	270	455	40	765	6.8	7.5	3.7	6.9
進学	201	555	28	784	5.1	9.1	2.6	7.0
就職	271	609	48	928	6.8	10.0	4.5	8.3
病気	1,876	2,414	373	4,663	47.3	39.6	34.6	41.9
老化	1,036	1,274	224	2,534	26.1	20.9	20.8	22.8
親子関係	388	685	73	1,146	9.8	11.2	6.8	10.3
虐待	50	77	8	135	1.3	1.3	0.7	1.2
財産	119	173	17	309	3.0	2.8	1.6	2.8
葬儀	349	417	65	831	8.8	6.8	6.0	7.5

注) 男女別では男性が女性よりも老世帯、病気、老化に高い関心を示し、進学、就職などに関して男性よりも女性に関心を持っている。

表 21、家族に関して気になる細項目として回答した地区別割合

	登別地区	幌別地区	西陵地区	緑陽地区	鷺別地区	不明
老世帯	21.9	19.2	19.6	19.2	20.1	13.4
独居	12.7	12.0	12.0	9.4	10.5	7.0
核家族	6.5	8.0	6.5	7.1	6.9	2.2
進学	5.8	8.5	7.2	8.2	6.2	2.2
就職	9.9	9.1	8.2	8.9	7.4	4.1
病気	42.3	40.7	41.7	44.2	42.9	20.4
老化	22.6	21.1	24.4	23.6	23.1	11.5
親子関係	10.5	11.5	10.2	10.2	10.1	5.7
虐待	1.2	1.2	1.1	1.2	1.3	0.6
財産	3.0	3.7	2.7	2.8	2.3	1.6
葬儀	8.1	6.3	8.2	7.5	7.6	4.8

高齢者に次いで、関心の高かった健康・医療(表 17)に関する細項目では、医療費に関する関心が飛び抜けて高いが、男性は病気や健康管理に関心が高く、女性は医療機関や専門医への関心が高い(表 22)。この細項目において、地区別では、医療機関に関する関心が最高と最低の間に9.4%、専門医に関して最高と最低では3.6%の差がある(表 23)。

表 22、健康・医療に関して気になる細項目として回答した男女別人数と男女別回答者数に占める割合

	男性	女性	不明	合計	男性(%)	女性(%)	不明(%)	合計(%)
医療費	2,160	3,263	418	5,841	54.4	53.6	38.8	52.4
医療機関	632	1,039	103	1,774	15.9	17.1	9.6	15.9
健康づくり	657	913	153	1,723	16.6	15.0	14.2	15.5
在宅介護	391	609	88	1,088	9.9	10.0	8.2	9.8
病気	1,531	1,956	327	3,814	38.6	32.1	30.3	34.2
専門医	317	642	78	1,037	8.0	10.5	7.2	9.3
健康管理	1,269	1,825	237	3,331	32.0	30.0	22.0	29.9
救急体制	383	624	62	1,069	9.7	10.2	5.8	9.6

注)ここでも男性が女性に比べて病気、健康管理に関して関心を寄せ、女性は全体的な傾向をそのまま示しているといえる。

表 23、健康・医療に関して気になる細項目として回答した地区別割合

	登別地区	幌別地区	西陵地区	緑陽地区	鷺別地区	不明
医療費	50.4	52.9	54.0	54.4	53.1	25.5
医療機関	23.4	17.1	15.4	15.0	14.0	10.5
健康作り	14.1	13.9	16.8	16.9	15.9	6.7
在宅看護	9.6	10.2	9.6	9.6	10.3	4.8
病気	34.8	33.5	34.9	34.9	35.0	19.1
専門医	11.9	10.3	9.8	8.6	8.3	5.7
健康管理	29.2	30.8	30.3	31.7	29.9	11.5
救急体制	11.9	11.2	9.8	9.0	8.6	5.4

障がい児・者に関する項目に関心を寄せた人は少ないが(表 17)、男女別の差が大きく出たのは作業所と自立の細項目であった(表 24)。関心が低い中でも、関心があるのは福祉施設、自立であった。

障がい児・者に関する関心と同じように、今回の回答者は子育てに関する関心は非常に薄い(表 17)。しかし、非行を除く各細項目に関して、女性の方が男性よりも僅かに関心が高い。

この他、表 17 に示したように防犯・防災のこと、町内会のこと、暮らしのことや市民活動のことに関しても調べたが、ここでは紙面の関係上議論せず、別の機会に論じることとする。

表 24、障がい児・者に関し気になる細項目として回答した男女別人数と男女別回答者数に占める割合

	男性	女性	不明	合計	男性(%)	女性(%)	不明(%)	合計(%)
学業	222	422	44	688	5.6	6.9	4.1	6.2
就労	652	1,022	86	1,760	16.4	16.8	8.0	15.8
支援費	453	694	67	1,214	11.4	11.4	6.2	10.9
福祉施設	966	1,577	144	2,687	24.3	25.9	13.4	24.1
作業所	366	863	76	1,305	9.2	14.2	7.1	11.7
自立	891	1,596	120	2,607	22.5	26.2	11.1	23.4
結婚	137	180	15	332	3.5	3.0	1.4	3.0
リハビリ	289	410	55	754	7.3	6.7	5.1	6.8

注)ほぼ男女とも同じ割合で分布しているが、女性のほうが作業所や自立に関心が向いているようである。

表 25、障がい児・者に関して気になる細項目として回答した地区別割合

	登別地区	幌別地区	西陵地区	緑陽地区	鷺別地区	不明
学業	7.1	6.5	6.4	6.5	5.4	4.5
就労	14.7	16.5	17.7	16.2	15.1	7.6
支援費	9.9	12.6	11.1	11.3	10.4	5.4
福祉施設	23.9	23.1	24.8	25.6	24.4	12.7
作業所	10.3	14.6	12.6	11.7	10.8	4.5
自立	22.5	24.6	25.0	25.2	22.2	9.2
結婚	2.2	3.3	2.8	3.1	3.3	1.6
リハビリ	6.5	6.9	7.0	6.8	6.8	4.8

表 26、子育てに関して気になる細項目として回答した年齢別人数と年齢別回答者数に占める割合

	男性	女性	不明	合計	男性(%)	女性(%)	不明(%)	合計(%)
子育て支援	511	1,034	80	1,625	12.9	17.0	7.4	14.6
学童保育	247	693	46	986	6.2	11.4	4.3	8.9
子ども会	148	198	25	371	3.7	3.3	2.3	3.3
学校	491	906	77	1,474	12.4	14.9	7.1	13.2
進路	329	745	53	1,127	8.3	12.2	4.9	10.1
非行	769	982	111	1,862	19.4	16.1	10.3	16.7
犯罪	632	1,053	104	1,789	15.9	17.3	9.6	16.1
親の責任	1,104	1,797	183	3,084	27.8	29.5	17.0	27.7

注)親の責任に関しては男性、女性とも関心が高いが、女性が男性よりも高い。

表 27、子育てに関して気になる細項目として回答した地区別割合

	登別地区	幌別地区	西陵地区	緑陽地区	鷺別地区	不明
子育て支援	13.3	14.5	16.1	14.8	14.9	4.8
学童保育	8.3	8.4	8.8	10.1	9.1	2.5
子ども会	3.2	3.9	3.2	3.1	3.5	1.3
学校	12.9	14.6	14.2	13.2	12.4	8.6
進路	11.1	11.3	9.3	11.6	9.1	4.8
非行	16.6	17.0	18.6	17.5	15.7	8.3
犯罪	16.1	16.0	17.7	16.0	15.9	7.3
親の責任	27.1	30.5	30.3	27.4	26.2	13.4

7、福祉サービスの利用と相談相手

住民のために準備されている福祉サービスにどのようなものがあるか、知ることも知らせることも重要である。また、どのような気持ちで福祉サービスを利用するのかも、非常に大切である。そこで、福祉サービスの使いやすさという意味でも、福祉サービスを利用する時に抵抗感があるかどうかを尋ねてみた。「抵抗なく利用できる」「そのときにならないとわからない」と答えた人は、女性の方が僅かではあるが多く、「抵抗あるが利用する」や「抵抗あり利用しない」と答えた割合は男性の方が高い。しかし、その差は2%にも満たず、「抵抗あり利用しない」と答えた男性が女性よりも2.5%高いだけである。従って、男女差は殆どなく、福祉サービスの利用は「そのときにならないとわからない」と答える人が圧倒的に多い(表 28)。また、福祉サービスを利用する時の感覚の違いが、地区別にあるのかを調べたものが、表 29 である。違いがあるとしても本当に僅かな差であって、ほとんど差がないと言うことが出来る。

表 28、福祉サービスを利用するときの回答者の感覚と男女別割合

	男性	女性	不明	合計	男性	女性	不明	合計
抵抗なく利用できる	813	1,384	188	2,385	20.5	22.7	17.4	21.4
抵抗あるが利用する	591	753	112	1,456	14.9	12.4	10.4	13.1
抵抗あり利用しない	106	89	24	219	2.7	1.5	2.2	2.0
そのときにならないとわからない	2,284	3,639	535	6,458	57.6	59.7	49.6	58.0
不明	174	227	219	620	4.4	3.7	20.3	5.6
合計	3,968	6,092	1,078	11,138	100.0	100.0	100.0	100.0

表 29、福祉サービスを利用するときの回答者の感覚と地区別割合

	登別地区	幌別地区	西陵地区	緑陽地区	鷺別地区	不明
抵抗なく利用できる	20.7	21.9	22.4	21.6	21.7	10.2
抵抗あるが利用する	12.8	11.5	14.2	13.3	13.6	8.6
抵抗あり利用しない	2.4	2.1	1.9	1.9	1.8	1.6
そのときにならないとわからない	57.4	60.1	57.8	59.1	58.5	35.4
不明	6.8	4.4	3.7	4.1	4.4	44.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

人は生活の中で困難に出会った時に、相談相手が重要な存在となる。そこで、相談相手がどのような人であるのかを調べたのが、表 30、表 31 である。当然、相談する内容によって相談相手を変えているのは当然のことであるが、男女別の割合から見ると、男女ともに配偶者、子どもや親・兄弟に相談する人が圧倒的に多い。男性は 40%以上の方が配偶者と子どもに相談するが、女性は配偶者、親・兄弟、子どもや知人・友人に 40%以上の方が相談する。特に、男性に比べて、親・兄弟と知人・友人に相談する人の割合が女性には多い。民生委員・児童委員、市役所の窓口などは男性の割合の方が高い。

表 30、相談相手の男女別回答者の人数とその割合

	男性	女性	不明	合計	男性(%)	女性(%)	不明(%)	合計(%)
配偶者	2,664	3,643	426	6,733	67.1	59.8	39.5	60.5
子ども	1,811	2,947	512	5,270	45.6	48.4	47.5	47.3
親、兄弟	1,468	3,174	283	4,925	37.0	52.1	26.3	44.2
親戚	679	726	159	1,564	17.1	11.9	14.7	14.0
知人、友人	1,109	2,809	260	4,178	27.9	46.1	24.1	37.5
職場の同僚、上司	257	357	22	636	6.5	5.9	2.0	5.7
経験豊富な近所の人	227	409	70	706	5.7	6.7	6.5	6.3
民生委員、児童委員	254	222	74	550	6.4	3.6	6.9	4.9
町内会役員	377	237	82	696	9.5	3.9	7.6	6.2
市役所の相談窓口	621	629	132	1,382	15.7	10.3	12.2	12.4
社会福祉協議会	176	145	41	362	4.4	2.4	3.8	3.3
学校の先生	22	110	3	135	0.6	1.8	0.3	1.2
医師や看護師	392	481	79	952	9.9	7.9	7.3	8.5
ケアマネージャー	203	274	44	521	5.1	4.5	4.1	4.7
子育て支援センター	15	57	4	76	0.4	0.9	0.4	0.7
在宅介護支援センター	180	199	41	420	4.5	3.3	3.8	3.8
警察官	210	190	39	439	5.3	3.1	3.6	3.9
相談する機関が分らない	191	192	39	422	4.8	3.2	3.6	3.8
身近に相談する人がいない	132	112	40	284	3.3	1.8	3.7	2.5
相談しない	116	104	23	243	2.9	1.7	2.1	2.2

注) 男性は女性よりも配偶者、親戚、市役所の窓口に相談をして、女性は男性よりも子ども、親兄弟、知人・友人相談している。

表 31、相談相手の地区別回答者の人数とその割合

	登別地区	幌別地区	西陵地区	緑陽地区	鷺別地区	不明
配偶者	54.4	59.4	63.3	65.0	61.2	28.7
子ども	46.4	45.4	50.0	47.3	48.9	27.4
親、兄弟	41.6	46.8	45.8	45.9	43.6	22.6
親戚	16.6	13.0	14.8	12.5	14.8	7.3
知人・友人	33.2	41.1	38.6	39.3	36.8	19.4
職場の同僚や上司	5.8	6.4	6.0	5.7	5.3	3.2
経験豊富な近所の方	7.8	6.0	6.3	6.0	6.6	3.2
民生委員、児童委員	4.3	3.8	4.7	5.4	5.6	5.4
町内会役員	9.0	6.1	5.5	6.0	6.2	4.1
市役所の相談窓口	13.8	12.7	12.0	11.5	13.0	8.9
社会福祉協議会	3.8	3.2	2.6	3.1	3.7	2.5
学校の先生	1.0	1.4	0.9	1.6	1.2	0.6
医師や看護師	9.6	9.0	9.2	8.1	8.1	5.7
ケアマネージャー	5.0	4.2	5.2	4.1	4.9	3.5
子育て支援センター	0.2	0.8	0.7	0.8	0.7	0.3
在宅介護支援センター	2.8	3.7	4.5	3.2	4.1	3.2
警察官	4.3	3.2	4.1	3.9	4.3	2.5
相談する機関が分らない	3.5	3.8	3.8	3.7	4.1	2.5
身近に相談する人がいない	2.9	2.5	2.0	2.6	2.7	2.5

相談しない | 3.2 2.2 2.0 2.2 2.0 1.0

相談相手の違いが、地区別に反映されているかを表 31 で調べた。配偶者に相談する人の割合が、登別地区では 54.4%であるのに、緑陽地区では 65%となっている。子どもと答えた人の割合が高いのは西陵地区の 50%で、幌別地区が 45.4%と最も低い。親・兄弟と答えた人の割合が高いのは、幌別地区の 46.8%、最も低いのが登別地区の 41.6%である。配偶者に相談したとする割合の最高と最低の差は約 10%であるが、この他の相談相手ではこれほど高い割合の差が生じていない。これらの結果から、地域別の差は殆ど存在しないこと言えよう。以上より、地区という観点では、住民が気になる問題についての細項目の分析と同様、相談相手でも大きな差が見られない。

8、おわりに

多くの場合、地区によるニーズの違いがあると言われるが、一つの市のレベルでは、それ程大きな違いが生じていないことがわかった。今回調査した登別市の調査では、温泉街の登別地区と新興街の緑陽地区での差は見られるが、この地区毎のニーズの違いは地区の特色に起因すると考えるより、年齢構成の違いと捉えた方が妥当である。地区の差は、産業構造の違いに大きく影響を受けるように思われるが、今回の調査では、その地区の住民の年齢特性の方が強く反映されていることが示された。日本社会は、世代毎に一つのコミュニティを形成していると考えられることも出来るため、同世代が同じ問題を抱える傾向が垣間見られる。だから、地域の特性ではなく世代の特性を考えたサービスを考えるとともに、各世代のニーズに適したサービスを提供することが重要になってくる。また、新しいサービスの提供の考案が必要という発想をするならば、この世代間の垣根を越えた世代間交流を基本にしたサービスの創出も一つのヒントとなり得よう。

今回のアンケート調査は、用紙の初めに記せられているように、初期の段階から住民の協力を得て調査を進め、アンケート作りの全ての過程を「まちづくり」と考えて行動している。この一環として、住民に調査の結果の説明会（今年中に全 17 箇所で開催予定）を 11 月から今日までに、13 箇所で開催し、510 名の参加者を得ている。この説明会で出された質問に対しても、現在、分析を行っている。更にこの中から、施策に影響を及ぼす妙案を引き出すことが出来れば最高である。

今回の調査では、社会福祉協議会が主体になった上で、町内会の協力を得て完成したことを付記し、感謝の意を表したい。また、このデータ分析が少しでも「まちづくり」に役立つことを期待したい。

資料 1、アンケート用紙

誰もが安心して生きて行くことの出来る町で暮らしたい
そのこころの声は一人では小さすぎて誰にも聞こえない。
でも誰もが幸せに生きるために、たった一人の大切な想いを集めて
みんなの声として束ねたら、きっとこれからの暮らしのあり方が見えてくる。
それが、「地域福祉実践計画」です。
計画作りの第一歩として、このアンケートから始めたいのです。
福祉の主人公はあなたです。
ご理解とご協力をお願いします。

登別市社会福祉協議会
福祉のまちづくり推進会
平成 17 年 7 月 1 日

登別のこれからの福祉のあり方を考えるアンケート調査

(回答の書き方について)

- [1] ご家庭の中で中学生以上であればどなたでもアンケートに答えて構いません。
- [2] ご家庭で回答される人数は2人以上でも構いません。
- [3] 選んだ番号は、はっきりわかるように回答用紙にご記入ください。
- [4] 平成17年7月末までに各町内会で回収しますが、決して強制ではありません。
- [5] 目の不自由な方には、登別視力障害者協会を通じ点字アンケート用紙をご用意します。
- [6] 障がいなどによりアンケート用紙のご記入がむずかしい方には、登別障害者福祉団体連絡協議会を通じボランティアによる聞き取りをおこないます。
- [7] 不明な点は下記にお問い合わせください。

社会福祉法人 登別市社会福祉協議会

[1]あなたのことについておたずねします。

回答用紙で該当のところに○をつけてください。

[2]あなたのお考えをお聞かせください

1. 登別市社会福祉協議会(社協)についておたずねします。

(1)社協をご存じですか

- ①よく知っている ②少し知っている ③仕事の内容は知らないが名前程度は知っている
- ④名前もどんな仕事をしているのかも全く知らない

(2) 社協の仕事についてご存じのことをすべて教えてください

- ①会員会費制度(一般会費・特別賛助会費) ②社協だよりの発行 ③登別市社会福祉大会
- ④福祉基金造成事業(ビールパーティー) ⑤地域福祉実践計画策定 ⑥ふれあい福祉センターの運営 ⑦福祉に関わる相談 ⑧福祉情報の提供・連絡調整 ⑨権利擁護事業 ⑩福祉・ボランティア研修の企画運営 ⑪小地域ネットワーク活動 ⑫ふれあい会食会 ⑬ふれあいいいききサロン ⑭ふれあい子育てサロン ⑮愛の一声運動 ⑯ふれあいフェスティバル ⑰生活福祉資金の貸付 ⑱たすけあい金庫の貸付 ⑲歳末見舞金の支給
- ⑳児童生徒の入進学支援
- ㉑福祉団体助成(民協・連町・障害者団体等) ㉒共同募金運動 ㉓ボランティアセンター運営
- ㉔ボランティア体験事業 ㉕福祉車両の貸出 ㉖福祉用具の貸出 ㉗在宅介護者のつどい
- ㉘在宅介護者交流会 ㉙入浴支援員研修の協力 ㉚デイサービスセンター(介護保険)
- ㉛障害者デイサービスセンター(支援費) ㉜居宅介護支援事業 ㉝配食サービス事業
- ㉞ファミリーサポートセンター(仕事と家庭両立支援事業) ㉟福祉の調査研究

2. あなたと地域とのつながりについておたずねします。

(1) あなたは隣近所とはどの程度のおつきあいをしていますか

- ①日頃から助け合っている ②気のあった人とは親しくしている ③困り事など相談できる
- ④たまに会えば立ち話をするくらい ⑤あいさつを交わす程度 ⑥ほとんどつきあいがいい
- ⑦わずらわしいのでつきあわない

(2) 町内会にはどの程度関わっていますか

- ①行事やお祭りにはお手伝いしたり参加している ②頼まれれば手伝いなど引き受ける
- ③役員を引き受けたり積極的に参加している ④特に参加していない ⑤できるだけ関わりたくない ⑥町内会に入会していない

3. あなたの日々の暮らしの中でのことをおたずねします。

(1) いまあなたがご自身のことで気にかかっていることは何ですか。

①から⑨までの()の中のアイウで特に気にかかることに○印をつけてください。

- ①高齢者のこと(ア.高齢化、イ.介護保険、ウ.在宅介護、エ.年金、オ.病気、カ.福祉施設、キ.住宅のつくり、ク.悪徳商法・詐欺)
- ②家族のこと(ア.老世帯、イ.独居、ウ.核家族、エ.進学、オ.就職、カ.病気、キ.老化、ク.親子関係、ケ.虐待、コ.財産、サ.葬儀)

③健康・医療のこと（ア.医療費、イ.医療機関、ウ.健康作り、エ.在宅看護、オ.病気、カ.専門医、キ.健康管理、ク.救急体制）

④障がい児・者のこと（ア.学業、イ.就労、ウ.支援費、エ.福祉施設、オ.作業所、カ.自立、キ.リハビリ、ク.結婚）

⑤子育てのこと（ア.子育て支援、イ.学童保育、ウ.子供会、エ.学校、オ.進路、カ.非行、キ.犯罪、ク.親の責任）

⑥防犯・防災のこと（ア.防災用品、イ.避難所、ウ.不審者・犯罪者、エ.防災マップ、オ.災害情報、カ.災害弱者、キ.安全パトロール、ク.空き巣、ケ.悪徳商法・詐欺）

⑦町内会のこと（ア.役員、イ.世代の交代、ウ.未加入者、エ.行事への参加、オ.近所つきあい、カ.活動資金、キ.葬儀）

⑧暮らしのこと（ア.生活情報、イ.物価、ウ.食生活、エ.交通機関、オ.商店、カ.金融機関、キ.あいさつやマナー、ク.除雪、ケ.除草、コ.ペット、サ.ゴミ、シ.騒音、ス.違法駐車、セ.バリアフリー、ソ.公園や運動場）

⑨市民活動のこと（ア.NPO、イ.ボランティア、ウ.消費者団体、エ.人権擁護団体、オ.男女共同参画、カ.オンブズマン、キ.福祉団体）

(2) 日常生活で困った場合、あなたは誰に相談されますか。相談相手をすべて選んでください。

①配偶者 ②子ども ③親やきょうだい ④親戚 ⑤知人・友人 ⑥職場の同僚や上司

⑦経験豊富な近所の方 ⑧民生児童委員 ⑨町内会役員 ⑩市役所の相談窓口

⑪社会福祉協議会 ⑫介護支援専門員（ケアマネージャー） ⑬病院の医師や看護師 ⑭学校の先生

⑮警察官 ⑯子育て支援センター ⑰相談する機関がわからない ⑱身近に相談する人がいない

⑲相談しない ⑳その他

4. 福祉サービスについておたずねします。

(1) あなたが福祉サービスを必要としたとき抵抗なくサービスを利用されますか

①抵抗なく利用できる ②抵抗はあるが利用する ③抵抗があり利用しない

④そのときにならないとわからない

(2) 抵抗があると答えた方はどんな抵抗がありますか

①家族や親族への気兼ねがある ②サービスの質や量が足りない

③隣近所にプライバシーを知られたくない ④経済的な負担が心配で利用しにくい

(3) 福祉サービスはどのように提供されることが良いと考えますか

①福祉は行政が行うべきもので、たとえ増税になっても国・道・市が担うべきである

②隣近所の連携を高め、その中で助け合い、住民自身が福祉の中心的な担い手になるべきである

③低料金のサービスを可能とするにはボランティアやNPO等の活動を活発化し担い手とする

④有料によるサービスでかまわないので優良な民間事業者を育て担い手とする

(4) 地域での支え合いの仕組みを作っていく上で、あなたが特に必要だと思うことは何ですか

①地域福祉活動への参加をPR ②支え合いの仲間づくりの機会と場所の確保

③支える人と支えられる人を調整する機関 ④支え合いのきっかけとなる事業の創造と推進

⑤地域の課題を共有するための連絡会やネットワークの結成

⑥行政による地域福祉活動への支援 ⑦個々人の多様性を認め合い支え合う意識の啓発

⑧行政・事業者・ボランティア・NPOと住民組織との連携

(5) 福祉を進めるためにあなたが特に力を入れて取り組んでほしいと思うことは何ですか。

①～⑰の番号から5つ選んでください。

①高齢者のこと（高齢化、介護保険、在宅介護、年金、病気、福祉施設、住宅のつくり）

②家族のこと（老世帯、独居、核家族、進学、就職、病気、老化、親子関係、虐待、財産）

③健康・医療のこと（医療費、医療機関、健康作り、在宅看護、病気、専門医、健康管理）

④障がい児・者（学業、就労、支援費、福祉施設、作業所、自立、リハビリ、結婚）

⑤子育てのこと（子育て支援、学童保育、子供会、学校、進路、非行、犯罪、親の責任）

- ⑥防犯・防災のこと（防災用品、避難所、不審者・犯罪者、防災マップ、災害情報、災害弱者）
- ⑦町内会のこと（役員、世代の交代、未加入者、行事への参加、近所つきあい、活動資金）
- ⑧暮らしのこと（生活情報、物価、食生活、交通機関、商店、金融機関、あいさつやマナー、除雪、除草、ペット、ゴミ、騒音、違法駐車、バリアフリー、公園や運動場）
- ⑨市民活動の推進のためのNPO・ボランティア等への支援体制の拡充
- ⑩行政内部の連携・協力体制の確立と
- ⑪総合相談窓口の整備
- ⑫人材、公共施設、民間施設、組織団体等の地域資源の活用
- ⑬世代間交流、地域イベント、情報発信など地域交流活動（町内会活動を含む）の促進
- ⑭社会福祉協議会の事業拡充と運営の充実
- ⑮プライバシーの保護や問題の早期発見など人権擁護の充実
- ⑯国民健康保険・介護保険などの保険事業の安定的運営
- ⑰その他

5. 地域活動や町内会活動など様々なボランティア活動が取り組まれています。
そこでボランティア活動についておたずねします。

- (1) あなたはボランティア活動に参加したいと思いますか
 - ①活動に参加したい ②あまり参加したくない ③参加したいけれど参加できない
 - ④まったく参加したくない
- (2) 参加するためには、どのような条件が整うと活動できるでしょうか。3つあげてください。
 - ①経済的な余裕があればよい ②時間的な余裕があればよい ③家庭での理解があればよい
 - ④職場での理解があればよい ⑤必要な情報提供が必要だ ⑥仲間同士の支え合いがあればよい
 - ⑦趣味を生かせる活動があればよい ⑧ボランティア講座など学習機会があるとよい
 - ⑨ボランティア活動への活動費の支援があるとよい ⑩活動に生きがいや充実感があればよい
 - ⑪自ら健康であるとよい ⑫行政の積極的な支援があるとよい
- (3) あなたが参加したいと思う活動はありますか。3つ以内でお書きください。
 - ①見守り、声かけ活動 ②情報の提供 ③災害など緊急時の援助 ④子育て支援
 - ⑤介護者の支援 ⑥環境美化活動 ⑦高齢者の支え合い活動 ⑧地域行事への協力参加
 - ⑨寄付や募金 ⑩障がい児者への支援活動 ⑪町内会活動 ⑫文化伝承活動
 - ⑬スポーツ振興活動 ⑭交通安全活動 ⑮子供会活動 ⑯福祉施設・病院訪問活動
 - ⑰学校支援活動 ⑱健康維持増進活動 ⑲家事援助活動 ⑳食生活改善活動
 - ㉑人権擁護活動 ㉒消費者生活に係る活動 ㉓生活環境の改善（ゴミや騒音）
 - ㉔その他

ご協力ありがとうございます

地域福祉実践計画作成の基礎資料として活用させていただきます。

ご回答用紙

[1]あなたのことについておたずねします。該当のところに○をつけてください。

男女の別	・男性	・女性
7月1日現在の満年齢	1. 18歳未満 4. 40歳～49歳 上	2. 18歳～29歳 5. 50歳～59歳 6. 60歳～69歳 7. 70歳以上
職業	1. 学生（中学生・高校生・専門学生・大学生） 2. 農業 3. 漁業 4. 公務員 5. 自営業 6. 会社員・団体職員 7. パート、アルバイト 8. 専業主婦 9. 無職 10. その他（ ）	
家族構成	1. 単身世帯 2. 夫婦だけ（1世代） 3. 親と子（2世代）	

	4. 祖父母と親と子（3世代） 5. その他
お住まいの地域	1. 登別温泉・中登別 2. カルルス・新登別・上登別・紀文台 3. 登別東町・登別本町・港町・富浦 4. 幌別町・幸町 5. 札内・来馬・新栄・千歳 6. 中央・常盤 7. 柏木 8. 富士 9. 新川・片倉・鉾山 10. 青葉・緑・桜木・若山2丁目 11. 富岸・大和・若山3、4丁目・栄町4丁目 12. 新生 13. 鷺別・栄 14. 美園・上鷺別 15. 若草

[2] あなたのお考えをお聞かせください

1 - (1) 社協? 1 - (2) 社協の仕事

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

2 - (1) 地域のつながり 2 - (2) 町内会との関わり

--	--

3 - (1) 気にかかること

①高齢者	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク									
②家族	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ						
③健康	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク									
④障がい	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク									
⑤子育て	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク									
⑥防犯防災	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ								
⑦町内会	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ										
⑧暮らし	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ		
⑨市民活動	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ										

3 - (2) 相談相手

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

4 - (1) 福祉サービス 4 - (2) 抵抗感 4 - (3) サービスの提供

--	--	--

4 - (4) 支え合いの仕組み 4 - (5) 福祉推進の取り組み

--	--	--

5 - (1) ボランティア 5 - (2) 条件 5 - (3) 活動

¹ <http://www.city.noboribetsu.hokkaido.jp/> 2005年10月13日

² 登別市、「平成16年市民ニーズアンケート調査報告」、2005年2月

³ 第4回福祉のまちづくり推進会 アンケート関連資料 2005年6月22日。また、現実のアンケート用紙は資料1として添付した。